

登録簿(鳥獣保護管理捕獲コーディネーター)

登録番号	C21001		
(ふりがな) 氏名	あべ ごう 阿部 豪		
連絡先	名称	株式会社野生鳥獣対策連携センター	
	役職	岡山支社長	
専門分野	鳥獣保護管理捕獲コーディネーター		
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ、ハクビシン、ヌートリア) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ノイヌ)		
主な活動地域	<input checked="" type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input checked="" type="checkbox"/> 沖縄		
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>イノシシやニホンジカ、ニホンザル等については、各種被害の抑制に向けた効果的な防護柵の設置や捕獲技術の開発や計画策定、普及指導等の業務に従事してきた。</p> <p>一方で、アライグマやヌートリア等の外来生物や、やんばる地域のノイヌについては、地域からの排除に向けた技術開発や計画策定業務に取り組んできた。</p> <p style="text-align: center;">農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録</p>		

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合には、当該利用者に関し情報の提供をします。

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

阿部 豪

株式会社野生鳥獣対策連携センター

対象鳥獣

ニホンザル

活動地域

岡山県
井原市

● 事業内容

鳥獣害対策支援体制強化事業(鳥獣害対策実践研修)実施業務
(岡山県発注業務)

■ 事業の背景

岡山県では、県内の農業に対する鳥獣害対策の推進と指導體制の強化を図るため、鳥獣被害の実態や効果的な対策に関する普及指導員の知識と技術の向上を目的とした研修事業を展開している。本業務は、その一環として実施した取り組みで、ぶどう産地におけるニホンザルの被害問題の解決を目的とした計画の設計と体制の構築を支援した。

従来の被害対策では、ニホンザルが園地に出没した際の個別の追い払いと駆除班による散発的な捕獲がバラバラに実施されており、被害はむしろ拡大傾向にあった。このため、登録者には地域ぐるみで取り組む効果的なニホンザル対策の計画立案と実効性のある実施体制を設計することが求められた。

実施した内容

事業では、まず加害性の高い群れに装着されていた電波発信器のビーコンを受信できるよう、防衛ライン付近に園地を持つ3戸の生産者に簡易の受信設備を貸与した。次に、地域の生産者と駆除班、市、県普及センターの職員等が参加するグループLINEを立ち上げ、受信情報やニホンザルの目撃情報をリアルタイムに共有できる連絡体制を整備した。ニホンザルの接近を感知した生産者は、受信情報をグループLINEで共有すると同時に、別途登録者が貸与したニホンザルの威嚇声発生装置の電源を投入し、群れが園地に到達するより前に追い払いを実行するよう指導した。この追い払い活動と並行して、駆除班は予め設定した捕獲候補地に移動性に優れた小型箱わなを設置し、追い払われたニホンザルの捕獲に努めた。捕獲候補地はGPS発信器の情報と地形情報、被害情報等をもとに、事前に登録者が抽出した。

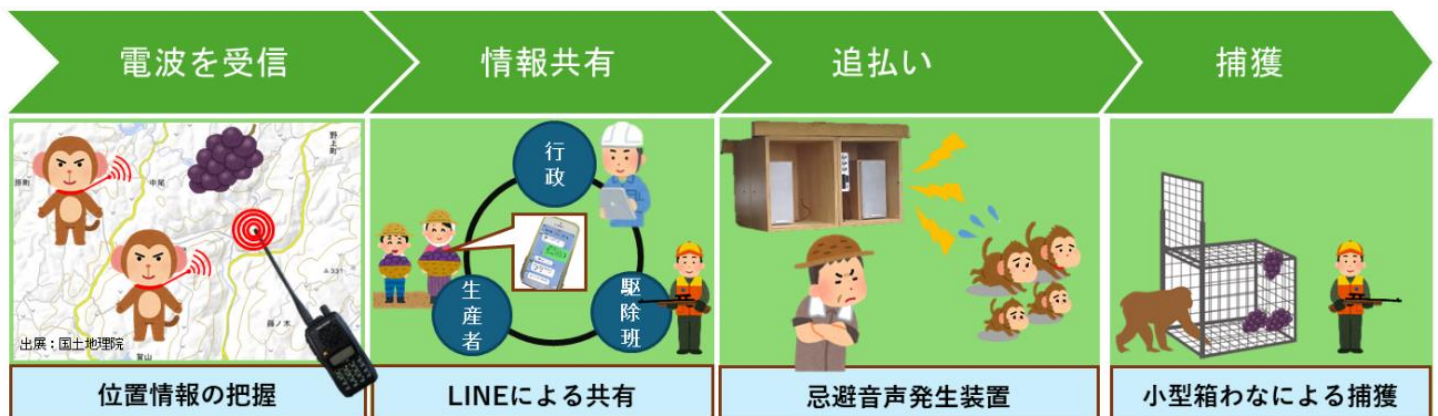


図1 構築した情報共有・追い払い・捕獲体制の概要

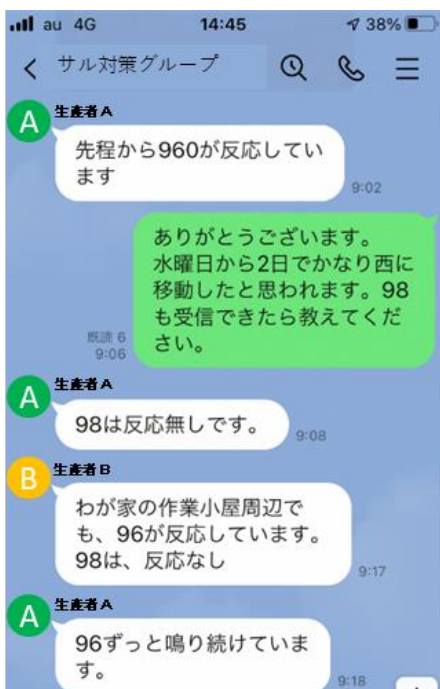


図2 グループLINEのメッセージ例



図3 グループLINEの立ち上げと使用方法の説明

■ 事業の成果

事業期間中に計4回、ぶどう園地に近い場所までサルが接近したものの、追払いにより群れがぶどう園まで到達することはなく、当該年度は被害の発生を完全に抑制できた（GPSによる位置情報から、追払いにより群れが大きく逃走した状況も確認できた）。また、グループLINEのメンバーが受信情報や目撃情報を素早く共有できたことで、サルの居場所の検討が付き、以下のようなメリットが得られた。

- 駆除班が効果的に捕獲を行うことができたため、加害性の高い群れのサイズを大幅に縮小することができた。
- 群れが農地に出没する前に、生産者が警戒行動をとれたり、対策を講じることができたことで、ぶどうに対する執着心を生まず短時間の追払いでも群れの進路を変えることができた。
- 逆に通報が無い時は、生産者が安心して園地を離れることができるなど、QOLの向上にも貢献できた。